

退院支援研修①

◆テーマ：更新しておこう！病院・施設の機能分化と退院支援の大切なこと

◇内容・講師：

「地域包括ケア病棟について」名古屋掖済会病院 林本隆幸氏

「介護医療院について」足助病院 名取彩実氏

「老人保健施設について」介護老人保健施星ヶ丘アメニティクラブ 石川将弘氏

「特別養護老人ホームについて」特別養護老人ホーム南山の郷 古川忠利氏
グループワーク

「講義を聴いて考えたこと、資料整理の方法、社会資源・制度変化のアップデートの方法、MSWとして情報を更新していく意義、どのように管理し退院支援に活かしていくと良いか」



◇参加人数：47名

◇アンケート コメント紹介◇

- ・老健、特養の大変さを知らず、驚く研修だった。
- ・GWでは、それぞれの病院で取り組んでいることを共有でき、自院でも活かしていきたいと思います。(情報収集、アップデート方法の参考になりました。)
- ・日頃から情報収集について課題を感じており、今日のグループワークでは、意見や他院の様子を聞き、当院の課題について考える機会となつてとても有意義だった。情報をどう集めるかも大事ですが、どう使うかがMSWにとって欠かせない所を改めて気づきました。
- ・もう少し各病院、施設の機能についてゆっくり話が聞きたかった。
- ・老健や特養、介護医療院の現状や施設によって対応が二極化してきていることなど、知らなかった情報を知ることができて良かった。MSWとして最新の情報をきちんと得ることが、結果として患者・家族の利益・生活に繋がっていくので、アンテナを張り今後も情報収集していきたい。

退院支援研修①について

委員長 澤田 昭宏

今年度の退院支援研修①は、昨年よりも多くの方にご参加いただき、大変盛況でした。講義では地域包括ケア病棟、介護医療院、老人保健施設、特別養護老人ホームをとりまく制度や運営の状況についてご講義いただき、理解を深めることが出来ました。また、それぞれの病院・施設がどのような制度の枠組みで運営されているか、それに伴う影響などをしっかり把握することができ、明日からの退院支援に活かせる内容でした。ただ、講義の時間が短い、もっと詳しく知りたかったというアンケートのコメントもいただきましたので、今後の研修内容に活かしたいと思います。制度や社会資源は刻々と変わっており、クライアントに適した情報提供を行うためにも情報のアップデートが必須です。参加者の間では収集した情報をどう管理し、アウトプットしているかなど情報交換することができました。経験年数の短い方も、また長い方も、それぞれに学ぶところが多くあったと思います。いろいろな意味で会員が縦横無尽に交流できる機会ともなりました。